

関係各位

病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察技術情報（第2号）の送付について

普通期稲におけるいもち病の発生について

7月中下旬に実施した水稻の巡回調査の結果、県下の普通期稲における葉いもちの発生面積が平年よりも多くなっています。地域別では、県東部と西部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部では平年並で、東部、中西部、西部では、ずり込み症状が見られるような発病程度が高いほ場も確認されています（写真1、表1）。

葉いもち発生予測システム BLASTAM では、7月第2半旬に感染好適条件が比較的多くの地点で出現しており、この時期に感染したものと推測されます（表2）。

四国地方の向こう1ヶ月の気象予報では、降水量、日照時間ともほぼ平年並の見込みで、7月21日頃に梅雨が明けたこともあり、いもち病の発生は一時的に収束に向かうと予想されます。しかし、曇雨天が続くと再び感染の機会が増加します。葉いもちが多いと、出穂期の曇雨天によって穂いもちが多発する可能性があります。今後、ほ場での発生状況と気象情報に十分注意して下記の対策を心がけて下さい。

記

「防除対策」

- 1 降雨が予想されるなど、いもち病の発生が懸念される場合には、高知県病虫害防除指針（高知県農薬情報システム内の配信ファイルの閲覧に掲載、<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>）に従って防除を実施して下さい。葉いもちが多い場合には、出穂期前後に穂いもちの防除を実施して下さい。必要に応じて追加の防除を実施して下さい。
- 2 薬剤防除を行う場合は、周辺作物への薬剤の飛散に十分に気をつけて下さい。
- 3 QoI 剤（ストロビルリン系殺菌剤）耐性いもち病の発生を防ぐため、QoI 剤の使用は作期を通じて1回として下さい。



写真1 ずり込み症状

表1 高知県内の普通期稲における7月中下旬の葉いもち発生状況

地域	発病程度 ^{a)} 別発生面積(ha)				合計	栽培面積(ha)	
	甚	多	中	少			
東部	本年		9.9	95.5	73.2	178.6	372
	平年		0.3	4.9	1.0	6.2	
中央部	本年			27.2	324.2	351.4	1,226
	平年		11.0	71.8	301.8	384.6	
中西部	本年		88.0	103.2	980.6	1,171.8	2,277
	平年	11.1	43.7	187.3	657.6	899.7	
西部	本年		52.5	284.4	271.3	608.1	875
	平年	0.1	31.1	66.5	252.3	350.0	
県下全域	本年		150.4	510.3	1,649.3	2,309.9	4,750
	平年	11.2	86.1	330.5	1,212.7	1,640.5	

a) 発病程度(甚:下葉は枯死し、完全なずり込み症状、多:止葉までかなりの病斑が見られ、軽いずり込み症状、中:中葉までかなりの病斑が見られ、止葉には点在する程度、少:下葉に病斑が見られるが、止葉には見られない)

表2 葉いもち発生予測システムBLASTAMによる感染好適条件の出現状況

日付	室戸岬	安芸	後免	高知	大橋	本山	本川	須崎	梶原	窪川	佐賀	中村	工川崎	清水	宿毛	日付
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/1
7/2	-	2	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/2
7/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	2	-	-	-	-	7/3
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/4
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/5
7/6	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	2	●	3	2	7/6
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/7
7/8	-	3	3	3	●	●	●	●	-	●	-	-	3	-	-	7/8
7/9	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/9
7/10	-	-	3	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/10
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/11
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/12
7/13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	7/13
7/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/14
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	7/15
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	7/16
7/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/17
7/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/18
7/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/19
7/20	-	3	3	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/20
7/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/21
7/22	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	7/22
7/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/23
7/24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7/24
7/25	-	-	-	-	-	-	-	-	●	2	-	-	-	-	-	7/25
7/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/26
7/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7/27

<用語説明>

●	感染好適条件	葉面湿潤時間がいもち病菌の感染に十分な10時間以上を満たしており、湿潤時間中の平均気温が15~25度、かつ前5日間の平均気温が20~25度で、葉いもちの大量感染に好適な条件が出現した場合。
4	準感染好適条件	湿潤時間中の平均気温は15~25度で、湿潤時間がやや不足。
3	準感染好適条件	湿潤時間中の平均気温は15~25度でないが、湿潤時間は条件を満たす。
2	準感染好適条件	前5日間の平均気温は25度を超過しているが、湿潤時間は条件を満たす。
1	準感染好適条件	前5日間の平均気温は20度未満だが、湿潤時間は条件を満たす。
準感染好適条件とは、葉面湿潤時間、温度等の条件の一部が不足している場合。これが続いても発病が始まるので、注意が必要。		
?	判定不能	欠測値があったため、判定できなかった場合。
-	感染好適条件なし	

お問合せは、病害虫防除所(TEL:088-863-1132)または環境農業推進課(TEL:088-821-4861)まで